

第1分科会

研究主題

心身ともにたくましい幼児を育てる運動的な遊び
ー友達と一緒に心と体を弾ませ、遊びを広げる環境の工夫ー

おおかわ
粕屋町立大川幼稚園

日程

9:00	9:30	11:30	12:00	13:00	13:10	14:20	14:50	15:00
受付	公開保育	移動・準備	昼食	開会行事	研究発表	研究協議	指導助言	閉会行事

公開保育案内

4歳児	ぱんだ組	・自分の思いを出しながら、友達と一緒に体を動かす。	園庭 教室
	うさぎ組		
5歳児	さくら組	・友達と一緒にイメージを広げながら、伸び伸びと体を動かす。	遊戯室
	すみれ組		

学校所在地図



交通機関

○最寄駅

「伊賀(JR)」下車 徒歩5分

○経路

博多 発 7:50 8:29

↓JR福北ゆたか線

長者原 着 8:08 8:42

(乗換)

長者原 発 8:11 8:46

↓JR香椎線

伊賀 着 8:12 8:48

学 校 概 要

幼 稚 園 名	粕屋町立大川幼稚園		
園 長 名	八 尋 文 枝		
学 級 数	4学級	園 児 数	122名
所 在 地	〒811-2312 糟屋郡粕屋町大字戸原13		
連 絡 先	TEL 092-938-3108 FAX 092-938-8248		

◎ 本園の沿革

- ・昭和38年4月 粕屋町立双葉園開園 5歳児 1学級 (大川中学校校舎借りて)
- ・昭和42年4月 粕屋町立大川幼稚園の認可を受ける
- ・昭和43年4月 園舎竣工 1年保育5歳児 2学級
- ・昭和46年1月 園舎増設
- ・昭和56年4月 遊戯室増設
- ・昭和63年4月 2年保育開始
- ・平成16年6月 園舎改築 (遊戯室棟を除く)
- ・平成17年2月 新園舎完成

◎ 教育目標

(1) 粕屋町立幼稚園教育目標

「心身ともにたくましく豊かな心情を持つ子どもを育てる」

(2) 大川幼稚園教育目標

「幼児が主体的に環境にかかわり、豊かな実体験を通して心情・意欲・態度を育てる」

◎ めざす子ども像

- ・健康で明るくたくましい子ども
- ・思いやりのあるやさしい子ども
- ・好奇心を持ちよく考える子ども
- ・最後までがんばる子ども
- ・自分の気持ちを伝える子ども



研究主題

心身ともにたくましい幼児を育てる運動的な遊び

—友達と一緒に心と体を弾ませ、遊びを広げる環境の工夫—

粕屋町立大川幼稚園

1 主題設定の理由

(1) 大会主題とのかかわりから

幼児が生涯にわたり運動に親しみ続けることは、日々の生活が明るく豊かで心身ともに健康であることが基盤となる。友達ができて、思いのまま体を動かさずにはいられないこの時期は、楽しければ何度も繰り返し続けている。その動きにちょっと変化を加えると、幼児は自ら様々な動きに興味関心を示し挑戦していく。色々な動きが織り込まれている遊びを十分に味わわせていくことで、体を動かす楽しさや面白さやルールなどを体得し、遊びを繰り返し広げていくのではないかと考えた。

(2) 社会状況から

近年、社会生活の変化により、子どもの心身の健康に関する課題が増大している。居住環境においてはアパートやマンションが増え、幼児が仲間と共に思いきり体を動かして遊ぶ場所が少なくなってきた。幼児期は特に身体面が著しく発達する時期であることを考えると、限られた室内で過ごす時間が多いことは、幼児の体にとって精神的ストレスを大きくするなど健康面から望ましい状況にあるとはいえない。

興味関心をもち、情緒が安定し、自ら心が弾み体を動かすことを楽しむことは、幼児にとって健康な発育・健康保持ができていくのではないかと考えた。

(3) 本園の幼児の姿から

入園当初は核家族が多いためか依存心が強い幼児が多く目立っていた。また遊びについては思いきり走れない幼児がいたり、友達とどうにかかわって遊べばいいかわからない幼児がいたりした。

幼児期は遊ばずにはいられない時期であることを考えて、幼児の興味や関心が自然な形で戸外に向けられるような環境構成をしていくことで、自ら遊びに挑み友達ともかかわり合いながら体を動かして遊び、自己充実に繋がっていくのではないかととらえた。

(4) 本園の教育目標から

本園は『健康で明るくたくましい子ども』と、目指す子ども像を掲げている。園の周囲には大きな木や遊歩道があり、小動物や草花で遊べる環境にあるので、幼児達の目は輝き、その感動を体全体で表現して遊んでいる。友達と一緒にだからできる遊びを繰り返し積み上げていくことで、遊びの基本的な手順を体得させて、用具や遊具の使い方を身に付けさせていきたい。そうすることで、自ら工夫し創造していけるような環境を見つけ、準備していくのではないかと考えた。以上のことから本主題を設定した。

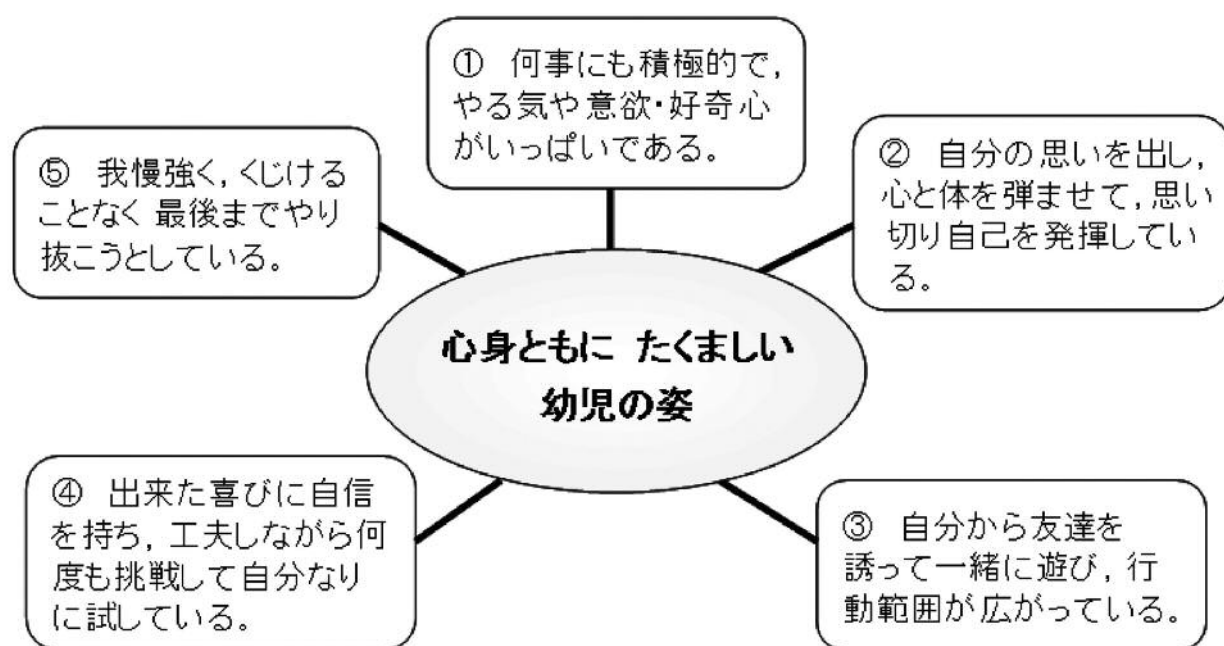


2 研究主題に対する基本的な考え方

(1) 「心身ともにたくましい」こととは

幼児期は、基本的な生活習慣や安全についての習慣や態度を身に付けていく時期である。心と体の健康は、相互に関連し合っているものであり、情緒が安定している幼児は、積極的に環境にかかわって、自ら体を動かして遊ぶ幼児である。幼児の心と体の健康は発達の基盤であり、発達の側面に反映している。心身の調和は、さらに多くの動きを身に付け数多くの体験をする機会に繋がると考えた。

「心身ともにたくましい」幼児の姿を次のようにとらえた。



(2) 運動的な遊びとは

幼児の生活は、生きるための生活活動もあるが、中心は遊びといえる。その遊びを通して心身の発達が総合的に達成されていく。遊びの多くは、身体的な活動を伴うものが多く、健康な体作りや運動機能の発達が期待できる。しかし、体力や運動能力のみを強調し過ぎると、遊び本来の自由な発想や楽しさの追求に繋がらない場合もある。

幼児の主体性を引き出しながら、生活との繋がりのもとに育てていくことを思うと「運動的な遊び」とは、特定の運動に偏らない楽しく体を動かす遊びと考える。

○空想の世界に入ると、自分と違ったものになりきって体が動く。

○何度も挑戦していくと、工夫が生まれ楽しくなり、より高い目標を持つ。

○精一杯の力で競い合うと、スリルや悔しさを味わい、次への意欲に繋げる。

(3) 友達と一緒に心と体を弾ませ、遊びを広げることとは

幼児が幼稚園で楽しく体を動かして遊ぶには、自分の思いを出すことが大切である。幼児の遊びが展開されていく中で、幼児や教師が思いを伝えたり体を動かしたりしながらかわり合っていくと、イメージを共有することが出来る。そうすることにより未知の世界への遊びに広がっていく。一緒に楽しさから教え合ったり認め合ったりすることも味わうことが出来る。また、様々な活動・用具などに興味をもって取り組むことで、幼児はもっている能力を生かし、自己の充実や自信に繋げて、心や体を弾ませながら遊びを繰り返し広げていくのではないかと考えた。

○教師や友達と安心して触れ合いながら、いろいろな活動に取り組んでいる。

○いろいろな遊びに興味関心をもったり、友達と誘い合ったりしながら遊んでいる。

○いろいろな遊びに意欲的で、思いきり体を動かしている。

○戸外へ飛び出し、太陽の光を浴びながら自然を活用して遊んでいる。

○友達のよさや思いを認め合って遊びを作っている。

○ルールを守りながら挑戦している。



(4) 環境の工夫とは

幼児が生き生きと活動を展開していくには、その活動に適した環境が必要となる。適切な環境は幼児の思いや教師の願いによってイメージが発展し変わっていく。活動の中で幼児がどのような会話をして動いているのかを知って、どのような環境が必要か判断していくことが大切であると考えた。そこには、幼児の発達を考慮することも含まれる。

○安心して取り組める場面にしていく。

○発達の段階に配慮した状況にしていく。

○経験してきたことを生かせるようにしていく。

○試行錯誤ができるようにしていく。

○幼児の自由な発想を生かして、幼児の選択・見直し・作り替えなどに応じていく。

○いろいろな人とかわかれる場面にしていく。

○物を見立てることや場面・人の雰囲気などのイメージに近づけるようにしていく。



3 ねらいと仮説

ねらい

日常の遊びの中で、環境にかかわって体全体を動かす心地よさや楽しさを味わう。

仮説

用具とのかかわりや日常的に耳にしている音楽・自然界の音や体感などの刺激によって幼児の心が動く中で、①教師が意図的に遊びの再構成を行ったり、②環境を準備したり、③教師がかかわったりすることで、幼児はいろいろな動きに興味関心を持ち、友達と共に主体的に体を動かして刺激を受け合い、共感し合えるようになるであろう。それらの楽しい経験を蓄積することで、あらゆる面で生き生きと輝き、心豊かなたくましい幼児を育成できるであろう。

4 研究の方法と内容

- 園庭の遊具、用具などを使用しての遊び方を探り、意図的に再構成を工夫をしていく。
- 幼児が遊びを展開する中で心が弾む遊びをとらえ、教師が身体的活動へどう接していくか保育を通して明らかにしていく。

①意図的な遊びの再構成

- ・活動の見通しをもち、幼児の何を育てたいか、どんな体験をさせたいかを考慮して意図的に幼児がかかわっていくように仕向ける。
- ・遊びの内容を共通理解して、手順がわかり自分で考え工夫していくようにする。
- ・ひとつのルールから面白さを求めてルールを付け加えたり変えたりしていく。
- ・多くの友達とかかわりが持てるようにストーリー性がある遊びの中に目標を持ち、達成へ向けて役割分担や協力をして遊びを発展させていく。

②用具、遊具の準備・自然の活用

- ・自らイメージをもち、友達と一緒に用具や遊具を使用して遊びを工夫し、組み替えながら自己発揮できるようにする。
- ・五感で感じる音楽や自然界のものを効果的に活用する。
- ・用具や遊具からイメージを引き出せるように見立てて活用する。
- ・作ったり組み合わせたりして、遊びに必要なものは扱いやすく作りやすいものを選択していく。
- ・用具や遊具の配置を考える。（使いやすい場所 片付けやすい場所）

③教師のかかわり

- ・楽しく体を使って遊ぶことを心がける。
- ・幼児の興味関心に目を向け、イメージを引き出して主体的に遊びや活動を展開していくように配慮する。
- ・ありのままの姿を受け止め、自己の充実や存在感を味わわせる。
- ・幼児の言葉に耳を傾けて、思いを生かしていく。
- ・遊びの積み重ねを大切にして、遊びを展開していくときに組み入れていく。
- ・幼児と共にアイデアを出し合いながら一緒に遊びを進めていく
- ・用具や遊具にかかわらせるときのタイミングを考慮する。
- ・時には演じながら遊びの広がりにかかわっていく。
- ・その場に応じた言葉をかける。



例えば

躊躇している場合・・・気持ちを汲み、安心感を持たせ背中を押す言葉

「どうしたの ○○なの？」 「どこが難しいかな？」
「先生と一緒にしよう」 「こんなやり方もあるよ」

遊びに入れない場合・・・名前を言って寄り添い、誘う言葉・待つ言葉

(気持ちがどのくらい傾いているか段階を見て)

「仲間にいれてもらおうか」
「待っているね 遊びたくなったら行こうね」
「ここで一緒に見ていようね」

試行錯誤している場合・・・考えたことを認める言葉

・いろいろな方法があることを伝え、思いが達成できそうな言葉

「うん うん！ なかなかいい考えしているね」
「難しいね もう少しここを○○したらよさそうよ」
「○○を使ったらどうだろう」
「こんなのはどう？」

出来上がりつつある場合・・・やっていることを褒め、楽しみに待っている言葉

「すごい！」 「○○君が考えたの？」
「みんなの力ってすごいね」
「アイデアマンね」
「おもしろそう～ 早く遊びたいな」

遊びが繋がり広がっている場合・・・達成したことを賞賛し、喜んでいる言葉

・自信を持たせる言葉

「最後までがんばったね はくしゅ～」
「○○君は***博士だね～」
「みんなも寄ってきたね 楽しそうね」

5 研究の経過

(1) 平成20年度の取り組み

- 幼児の実態把握をする。(生活習慣 遊び 親の要望)
- 身体を使った遊びの年間計画の作成
- 全国学校体育研究大会の共通理解【粕屋町 4園】
外部講師の招聘・・・福岡県体育研究所総括指導主事 橋本 真理子先生
- 園内研修
外部講師の招聘・・・香蘭短期大学准教授 太刀川 春美先生

《成果と課題》

- 粕屋町幼稚園職員で、研究会の共通理解をして4園共通の主題設定ができた。
- 4園共通の心が弾む遊びの年間計画案を作成していった。
- 他園の園内研修に参加して幼児が心と身体が弾む子どもの姿を理論的に学んだ。
- ◎心が弾み身体を動かす遊びについて保育実践して、環境構成や遊びのとらえ方についての理解や工夫をしていく。
- ◎幼児理解をしながら教師がかかわり保育の充実を図っていく。
- ◎年間計画を見直して修正していく。

(2) 平成21年度の取り組み

- 職員異動で、6人が新メンバーとなったので、再度主題・ねらい等の共通理解をする。
- 幼児の運動能力テストを行い、実態を把握する。(5月)
- 四園合同研修をして研究会への理解を深める
外部講師の招聘・・・全国学校体育研究大会福岡大会 研究部長 陶山 嘉一先生
- 園内研修をして幼稚園の環境を見直し、教師のかかわりの研修をしていく
外部講師の招聘・・・香蘭短期大学講師 太刀川 春美先生

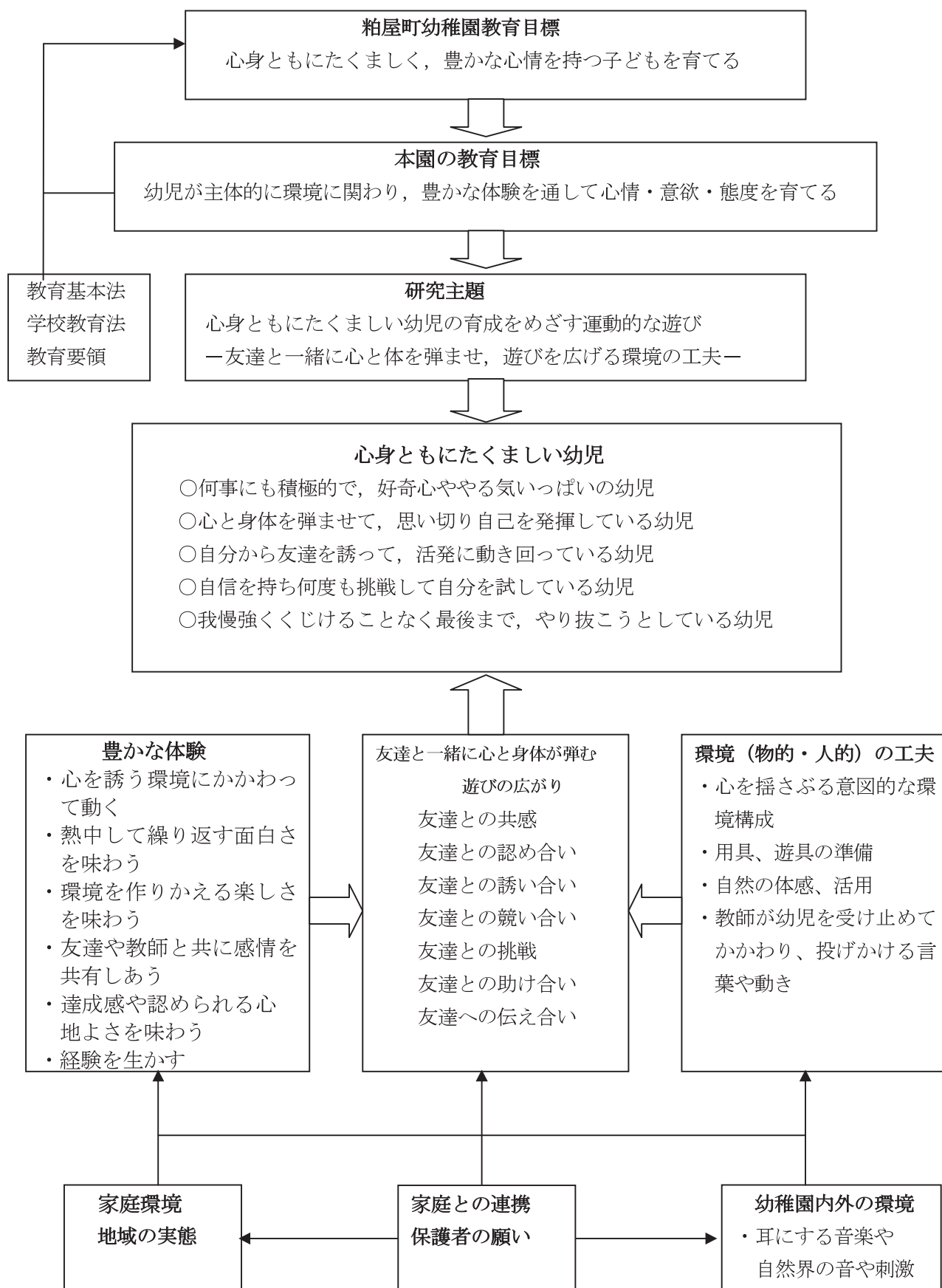
《成果と課題》

- 運動能力テストを行ったことから幼児の状況を把握することが出来た。
- 本園ならではの環境を見直し、用具や遊具について使用の仕方に工夫が見られてきた。また保育計画が出来たことで、他園との共通研修ができた。
- 幼児が作り出す環境に教師のかかわり方で、遊びの発展が大きく変わっていくことがわかってきた。
- ◎理論的なことが活動の中に見出されているか保育の振り返りをしていく。
- ◎遊びの広がりの中に心が弾み身体が弾んでいる姿の視点を環境にあてていく。
- ◎次年度の運動能力テストの結果からの伸び力を見て、遊びの工夫をしていく。

(3) 平成22年度の主な取り組み

- 主題や副主題を共通理解していく。
- 幼稚園内外の環境を見直して、遊びを誘う環境を作っていく。
- 運動能力テストを行い、幼児の実態を把握する。(5歳児は昨年度との比較)
- 園内研修をして、遊びを広げる環境の工夫を探る。

6 研究の構想



7 研究の実践

【事例1】 遊びの再構成から (4歳児 9月)

～挑戦意欲や達成感の生まれる遊び～

< 9月7日 >

男児数名が築山に裸足でよじ登る姿を見て『うさぎ組忍者！山登りの修行だな、先生忍者も登れるかな？・・・うわぁ滑ってしまう・・・』と言葉をかけた。「待ってって」と年長の友達から跳び縄を借りてきて山の上から縄をたらし、教師や友達を引っ張りあげる姿が見られた。よさこいの曲で忍者に変身してから踊った1学期の経験があり、忍者というイメージが持ちやすかったようだ。教師が忍者になりきって築山の上から『山跳びの術！』と飛び降りてみると、男児達が教師の後から次々に飛び下りだし、「バッタの術！」「コオロギの術！」「シンケンジャーの術！」など自分で考えて言って飛び降りだした。

< 9月8日 >

「先生、忍者になろう」「どこに修行に行くでござるか」「山に行きたいでござる」と会話も忍者言葉のやりとりになった。昨日は参加しなかった女児達も入ってきた。山をスムーズに登れない女児に昨日遊んだ幼児が「裸足になったら登りやすいよ」と教えていた。初めての幼児は築山の上から下を見下ろして怖そうにしていた。しかし、登れたという実感や飛べたという実感が持てると表情も明るくなって何度も何度も跳び出した。



< 9月10日 >

繰り返し毎日遊ぶ中で、最初は参加しようとしなかった幼児もやってみようかなと自分から遊びの仲間に加わっていた。また色々な忍者の術に見立てることで手裏剣を投げながら「手裏剣投げの術！」と跳んだり、「スクリュウの術！」と空中で回って跳んでみたり、体の動かし方を変えて友達とは違う跳び方を考えて遊ぶ楽しさを味わっている幼児もいた。

< 9月14日 >

クラスの中で、忍者や忍術に関する絵本を読み聞かせしたり、保育室に置いておくことで、忍者へのイメージも更に広がりだしていった。忍者ごっこはその後も園庭の太鼓橋で「こうもりの術」といってぶら下がったり、うんていでは「屋根登りの術！」と上を渡ったりするなど挑戦しようとする姿が見られ様々な遊具を使つての忍者ごっこに広がっていった。



< 9月28日 >

この日は雨。室内で忍者ごっこをしようということになり、倉庫の中から修行できそうな体育遊具を探しに行く。今までの経験からはしご渡りで遊んだことはあったが、忍者になっていることで「カニ歩きの術！」と横向きに渡っていく友達の姿を見て、その動きを自分も取り入れてやってみようとしていた。いつもと違う動きができたことが自信となって繰り返し遊ぶ姿が見られた。

考察

- 園生活にも慣れてきたので、遊びの中で体を動かす楽しさや思い切り動く面白さを感じて、4才児なりの挑戦意欲を引き出したと思い「忍者ごっこ」を取り入れていった。
- 幼児には何気ない山登りだったかもしれないが、教師がかけた一言で“本当だ、忍者みたい”という気持ちを持ち持てるようになって「忍者ごっこ」のきっかけとなっていた。
- 最初は“できるかな”と友達の様子を見ていた子も友達の動きをまねたり、忍者になったりしたことで“やってみよう”という気持ちになっていた。“やってみたらできた”と実感が持てたことが4才児にとっては小さな達成感となり、その積み重ねが次への挑戦意欲へつながっていった。
- 忍者になりきることで“これもやってみよう”と試そうとしたり、“できるかもしれないぞ”という自分への期待がもてたりするようになり、自分なりのいろいろな忍術を考えて遊びを広げていった。

【事例2】 遊びの再構成から （5歳児 6月）

～ストーリー性のある遊び～



< 6月18日 >

幼児達がよく知っているテレビアニメのドラえもんの話が上った。幼児達のイメージが膨らみ、「タイムマシンを作りたい!」というアイディアが出てきた。それから幼児達はマルチパネを、協力し合って組み立てていった。出来上がると早速乗り出し、押す子が出てきた。「いくよー!」と腕と足に力を入れて踏ん張って押し出した。乗っている幼児達は動きだすと「わー! おもしろーい!」と歓声をあげて喜んでいった。

< 6月23日 >

以前、忍者ごっこで遊んでいたこともあり、「どこでもドアから忍者の世界に行くことにしよう」とK男が言いだした。「忍者の世界にはお城があるよ」「お城の穴に入る時は、スモールライトで小さくなって入ることにしよう」とT男が言う。それから幼児達は段ボールを城に見立て、体を小さくして何度も行き来していった。



< 6月24日 >

幼児と話している中で忍者の城にはドラミちゃんが捕まっていることになった。「この黄色のボールをドラミちゃんにしたら?」「そして、お城からドラミちゃんがジャンプしてくることにして、キャッチ出来たら助けて逃げられるってことにしよう」とR子やM子が言う。その幼児達のアイディアを取り入れ、教師が板を出してやってみせる。幼児達は飛んできたドラミちゃんを落とさないようにどうやってキャッチをしたらいいか考えた。手でキャッチしたり、かごでキャッチしたりと色々な方法で考えたが、どの方法も難しかったので教師がフープに袋をつけた方法を提案した。「これでキャッチ出来るね!」と幼児達はこの方法でキャッチすることに決めた。それから幼児達は、ドラミちゃんを目で追いながら必死に追いかけてキャッチをしていた。

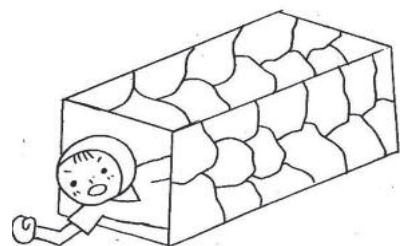


< 6月26日 >

ドラミちゃんを助けると、忍者に見つからないように城の屋根に見立てた一本橋を渡り、タイムマシンに乗って元の世界に戻るという流れが出来る。R子が「屋根の上を通ってくる時に石が飛んでくるっていうのはどう?」と考えを出す。周りの幼児や教師も「いいね!」と言っていつて新聞紙をみんなで丸めて、石を作って投げた。渡っている子は当たらないようにと体をくねらせて避けていた。

考察

- 幼児達のほとんどがドラえもんを知っており、ドラえもんが使う道具などを作ったことでよりイメージが湧き、自分達でストーリーを作っていくやすかったのではないと思う。また物語の世界や空想の世界で遊ぶことでその世界の中に入りこみ、「忍者にみつからないようにしよう」「ドラミちゃんを助けるんだ」など幼児達の中にはドキドキ感やワクワク感が生まれていたと思う。その気持ちが生まれてくることで、ドラミちゃんを助けるために必死でキャッチしたり、忍者に見つからないようにそっと渡ったりなど動きとして出てきたのではないかな。
- タイムマシンを作ったことで、より一層ワクワクする気持ちが大きくなったようだ。また、ぎゅうぎゅう詰めになって乗っている友達の反応を楽しみながら手と足に力を入れて踏ん張って押すことを楽しみ、繰り返し遊ぶ姿が見られた。



【事例3】 用具、遊具の準備・自然の活用

保育の中で幼児が自然に体を使って遊びたくなる日常の雰囲気作りを大切にしたり、園内外の自然や隣接している小学校の校庭などで体を使って遊ぶ機会を多くつくっていった。

1, 裏庭を使って (4才児)



ぶらんこの
術!

裏庭の木にロープを吊り下げて、自然の中で伸び伸びと忍者ごっこを楽しむ。

2, 小学校の校庭で (4才児)



ジャンプ!

広い校庭に行き、園庭にはない遊具で思いっきり体を動かして遊ぶ。

3, 固定遊具を利用して (5歳児)



よし、
やってみよう

うんていにロープを張り、足が届くようにすると、挑戦しようとする意欲が高まった。

4, 園庭で (5歳児)



がんばれー

園庭にトラックの線を引いたことで、運動会で経験したリレーごっこが始まった。

5, 移動遊具の工夫 (4才児)



いち、にー
いち、にー

木製遊具や踏み板をつないでぽっくりコースを作り、バランスを取りながら歩いている。

6, 移動遊具の工夫 (5歳児)



誰だ?
ガオッー

スポーツジムをトロルの橋に見立て、トロルになりきったり、橋を渡ったりしている。

7, 室内環境の工夫 (4歳児)



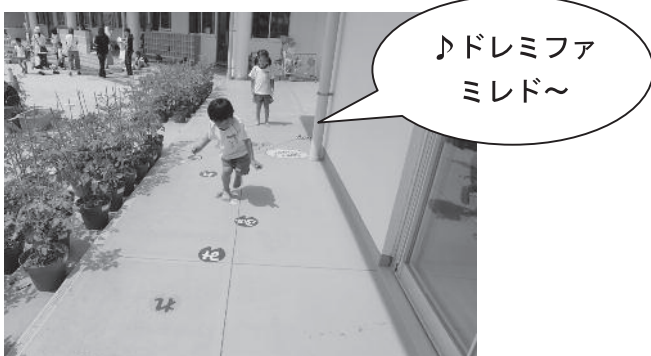
ペットボトルにビーズを入れ、音が出るようにした。当たって音を鳴らさないように小さくなって通っている。

8, 室内環境の工夫 (5歳児)



ゴセイジャーになりきって、目標物(悪者)にタッチするため、大きくジャンプしている。

9, 園舎, 園庭環境の工夫



テラスで片足跳びなどが出来るようにカエルの歌の道をつくる。

10, 園舎, 園庭環境の工夫 (5歳児)



地面にレンガを埋め込み、ケンケンパの道を作ると、ドンジャンケンをする遊びに変化する。

11, 手作りの遊具 (4歳児)



布を三つ編みにして、「跳び縄」を作る。家の人と一緒に作って嬉しそうにしている。

12, 手作りの遊具 (5歳児)



保護者参観で親子で竹馬作りをする。家の人と一緒に作ったものだから愛着が湧く。

【事例4】 教師のかかわりから （4歳児 4月下旬）

～3匹のやぎのがらがらどんの絵本に興味を持ったことから～

< 4月26日 >

園生活になじめないでいるK男が3匹のやぎのがらがらどんの絵本に興味を持ったことから、クラスで繰り返し読んだ。橋を渡るやぎと、橋の下にいる怖いトロルの姿を見て「うわぁ…トロルが出てきた」「橋渡れるかなぁ…がんばれ!」と幼児から言葉が飛び出した。『先生もがらがらどんになって橋を渡りたくなってきたなぁ…』と言うと「僕も渡りたい!」「私も!」と次の日に遊ぶ約束をした。

< 4月27日 >

昨日のことから保育室の片隅に太鼓橋を用意しておいた。「先生、がらがらどんになろう」「橋の下にはトロルがいるよ」「橋はこれにしよう」「岩もいるね」と幼児と一緒に太鼓橋を組み立てた。橋は手足を使いながら「渡れるかなぁ…」と挑戦する姿が見られたので『すごいね! やったぁ渡れたね!』と、一緒に喜んだ。橋をスムーズに渡れない幼児には教師と手を握り一緒に渡ることによって「渡れた!」という自信につなげていった。



< 5月7日 >

最初はがらがらどんになって橋を渡ることだけで遊んでいた幼児から「トロルも仲間に入れよう」という声が聞かれた。『トロルさんも、みんなと仲良くしたいと言っていたからタッチするっていうのはどう?』と教師が声をかけると「いいね!」と天井からトロルを吊り下げた。幼児が飛ぶことも楽しめるように岩の高さは幼児と一緒に決め「タッチ!」と繰り返し遊んだ。

< 5月10日 >

繰り返し毎日遊ぶ中で、タッチ出来たことが自信につながり「先生、トロルをもっと高くしてみたい」と幼児が言ったので、一緒に倉庫に探しに行きスポーツジムを保育室まで幼児と運んだ。「うわぁドキドキする。よーし! 大きいやぎのがらがらどんに変身すればいい!」との幼児の声に『いい考えやね。先生やぎも変身しよう!』と、一緒にやぎになりきって体を動かして遊ぶ。高さを変えたことで、「やった! トロルに届いた」「あ! 届かなかった。残念!」と何度も挑戦していた。その内に、友達とは違う飛び方を考えて回転したり、しゃがんで勢いをつけたりして色々な跳び方を楽しむ幼児もいた。



< 5月17日 >

保育室だけではなくもっとダイナミックに遊びたいという教師の思いがあり、解放感も味わえる裏庭の木にトロルを吊り下げた。幼児がいつものトロルが居ないことに気付いたので、一緒に探しに行き裏庭でトロルを見つける。『じゃここに橋を持ってきたらいいんじゃない』と教師が誘ってみると「いいね」と用具を裏庭に出して遊ぶ姿が見られた。一人で渡れなかった幼児も環境が変わったことで、自分から橋を渡ろうとする意欲へとつながった。

考察

- 絵本を何回も読んだことや、教師も遊び仲間になって幼児の思いを受け止めていったことで、不安や緊張感があつた幼児も安心して遊びに入れたようだ。
- 遊具の高さを幼児と一緒に考えたことで“やってみよう”という気持ちにさせたり“出来た”“すごいね”と認めたりすることで、次への意欲につながっていったのではないだろうか。
- 風に揺れるトロルにタッチしようと手をしっかり伸ばしたり、タイミングを見計らって跳んだりしていた。保育室とは違った解放感のある裏庭に環境を変えたことで、何度も挑戦して幼児の動きが活発になり、遊びが盛り上がったのではないか。

【事例5】 教師のかかわりから （5歳児 9月～12月）

～R子が逆上がりに挑戦していった姿～

< 9月 >

秋のよさこい祭りと運動会のテーマを忍者にしたことで、幼児たちは忍者に興味を持っていた。運動会の競技の中では、挑戦して欲しい忍者の修行の一つとして鉄棒を取り入れることにした。苦手を感じないように、まずは豚の丸焼きや足抜き回りなど得意なことから鉄棒に親しめるように声を掛け誘っていくと「それならできるよ!」と得意そうにやって見せる。以前から逆上がりの練習をしている幼児もいたので、2学期も早速、園庭や室内の鉄棒に補助板を付けた。そのことで“できるかも!”“やってみよう!”という気持ちになったのか次々に挑戦し、友達の頑張りに刺激を受け合っている。



< 10月 >



忍者ごっこでも“忍者になりきることで楽しみながら挑戦して欲しい”という教師の思いと幼児たちの要望もあり鉄棒を修行に取り入れた。その頃、R子も園庭や室内用の鉄棒で補助板を使って練習していた。忍者ごっこの時はもちろん登園後や弁当後、降園後などにも毎日挑戦している。周囲の幼児や教師も見守ったり補助をしたりしたが、腕がすぐに伸びてしまい補助板を使ってもなかなかできない。しかし、R子の頑張る姿から強い思いが伝わり、教師や幼児達も毎日のように一緒に練習し励ましていった。

< 11月 >

忍者ごっこが終わってからも「逆上がりの練習してくる!」と諦めずに挑戦する姿が窺えたので、教師もR子の腰を支えて補助をし『腕が伸びないようにね』『もう少しでできそうよ!』『忍者の時みたいだね』と励ましていった。周囲の幼児たちもそんなR子の頑張る姿を見て「足をこっちにやるとよ」「ギュッと握って、ん～って力を入れると」とアドバイスをしたり実際にやって見せたりし、何とかできるようになって欲しいという思いが伺えた。R子も“早くできるようになりたい”という表情で、ギュッと鉄棒を握り、腕が伸びないように力を入れて足を思いっきり上に上げようとする。地面から足を離した後も「ん～っ!!」と顔を真っ赤にして持ちこたえようとしている。そして数日後、やっと補助板を使えば一人でもできるようになった。R子は大喜びして毎日毎日取り組み、回る感覚を楽しんでいった。そして更に“自分だけの力でできるようになりたい”という思いが強くなったようだった。

R子は、自分のそんな変化や“もう少しでできそう!”という期待感からか、なるべく補助板を使わずにやってみようとし、友達と一緒に毎日挑戦していく。“あと一息”という感じである。

< 12月 >

そんなある日、「先生、来て来て!!」「逆上がりができたよ!」とR子たちが嬉しそうな声で言いに来た。『えー!すごい!!先生にも見せて!』と、急いでR子たちと鉄棒のところに行くと、早速やって見せてくれた。『やったー!すごいすごい!!』と手を取り合ったり拍手をしたりして喜び合った。R子にとっては大きな自信となり、それからずっと逆上がりを楽しんでいる。



考察

- R子にとって苦手意識が強かった逆上がりだが、運動会や忍者ごっこの中で、忍者になりきって楽しみながら取り組んだことがきっかけで“逆上がりができるようになりたい”という強い思いが芽生えたのだろう。
- 周囲の幼児たちも、達成する大変さを分かっているからこそ、R子の気持ちが分かり応援する気持ちになって、達成した時には共に喜び合えたのだろう。そんな仲間作りの大切さも感じた。
- 園庭の鉄棒だけでなく、室内にも補助板付きの鉄棒を置いていたことや、友達や教師の見守る気持ちや励ましがあつたことでR子の挑戦意欲が高まったのだろうと思う。なりきって遊べる環境や、やってみたくなる環境の工夫、かかわり合うことの大切さを感じた。

8 研究の成果と課題

(1) 成 果

友達と一緒に心と体を弾ませ、自分たちで遊びを広げて楽しむ幼児たちの姿を引き出すためには、ストーリー性のある遊びを企画する、ルールを改良発展させるなどの「遊びの再構成」や、効果的な配置等を考えた「用具、遊具の準備・自然の活用」や、子どもの遊びの姿に応じた「教師の適切なかかわり」の『環境の工夫』を組織的に検討し、見直し実施することが有効なことがわかった。

< 意図的な遊びの再構成 >

- ストーリー性のある遊びのなかで、主人公などになりきる設定にすることで、活動に見通しがあり、意欲的に遊ぶ姿につながった。また、遊びがもっと楽しくなるようにルールを工夫し変化させる再構成を行うことにより、遊びの広がりを促すことができた。
- 遊びの中で意図的に体を動かす要素を盛り込むことで、「遊びの中で気づいたら自然に体が動いていて、体を動かすおもしろさを繰り返し味わう」幼児の姿につながった。
- どうしたらよりおもしろくなるか、何を使ったらいいかななどを友達と考えを出し合う場を設定したことで、友達の意見に耳を傾け、お互いに認められるようになってきた。
- 入園当初に、ゆっくりとした雰囲気の中で好きな遊びを十分に経験できたことが、遊びを楽しむことにつながり、新しいことにも興味・関心を深めていくことにつながった。

< 用具、遊具の準備・自然の活用 >

- 普段の生活の中で自然に体を動かしたくなるような環境を教師が設定したり、幼児自ら発見・発想できるように小道具等を用意したりしたことで「～したい」「～って何？」と心の動きが見られた。
- 安全面を十分に考慮したうえで幼児の目に触れやすい場所に遊具や用具を置き、自分たちで取り出せるようにしておくことで、幼児の遊びへの意欲を高め、自分たちで遊具を動かしたり、付け足したりするなどの主体的な動きを引き出すことにつながった。

< 教師のかかわり >

- 教師が遊び方の演示をしたり遊びを発展させるヒントを示したりして、幼児とかかわりながら一緒に遊びを広げることによって、幼児が跳んだりはねたりと体を動かす姿が変わった。
- 遊びの中で教師がかける賞賛や励ましの言葉や、教師や友達と一緒に演技をすることで、幼児自身が「できた」という自信につながり、充実感に満ちた生き生きした表情が見られた。

(2) 課 題

- ▲アンケートや運動能力テストを行ったが、幼児の心と体が動き出すような遊びとのつながりを十分に把握できなかった。多様な動きを自ら組み合わせる力が身につくような実践を積み上げていく。
- ▲幼児が日頃の生活や園環境の中で経験している動きや一人一人の発達を明確に把握し分析していくことで、「できる」「できない」にとらわれず、より多様な動きに意欲的に挑戦していけるような環境の構成や教師のかかわりを職員で連携をとりながらさらに探っていきたい。
- ▲遊び方に個人差があることがわかったので、遊びが固定化している子には、活動に参加している姿を褒めながら新しい挑戦を促すようにしていきたい。また、様々な遊びのおもしろさを提示しながら、達成感を味わう経験を多くさせていきたい。

